



長野県建築士会

佐久支部

# ちしよ



## 佐久の礼所

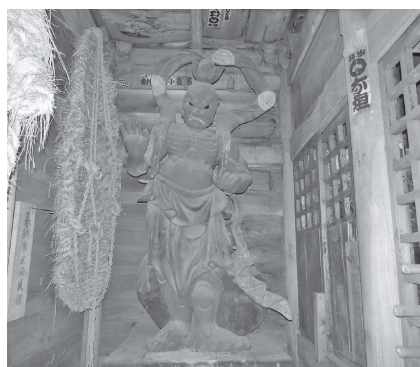
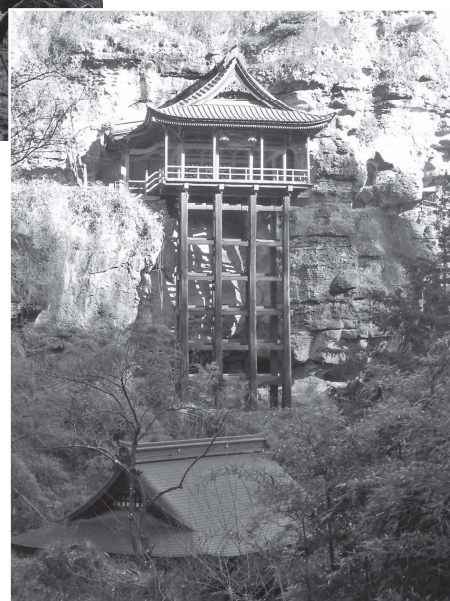
～牛に引かれて善光寺参り～

第1番礼所 布引山釈尊寺  
小諸市大久保2250

信濃四大伝説のひとつ「幻牛伝説」発祥の地とされる。

釈尊寺は724年(奈良時代)に開創。観音堂内にある「宮殿」は国重要文化財に、「白山社社殿」は県宝に指定されている。

登山道には「見守り地藏」「牛岩」「馬岩」「善光寺穴」など見所が多い。



支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
建築士会全国大会優勝	4～5
事業中間報告	6～7
小諸風穴調査報告	8～9
ウッドクラフト2015	10
建築士フォーラム2015	11～12
特別寄稿	12～13
新会員の声	14
賛助会員の紹介	15
事務局より	16

モクジ

## 新年のご挨拶

(一社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 荻原 白



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は一昨年に長野県を襲った水害・噴火・地震の大災害もなく平穏無事の年となり佐久地方に於きましても安泰な穏やかな年でした。

私は5月13日支部協議会において二期目の支部長の任をご承認頂き、5月23日第65回長野県建築士会通常総会において(一社)長野県建築士会理事してご承認頂きました。

一期目の経験を活かした支部長の責務を何とか会員の皆さま方の温かいお力沿いを頂きまして従来通りの活発な支部活動を継続させて走り続けますので会員の皆さま、本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年5月からは本会の執行部も場々会長体制となり平成27年度事業計画『夢のある建築士会を目指して』を掲げ、平成25年4月一般社団法人としてスタートしましたが、本年度からは公益社団法人長野県建築士会を目指した活動、事業の分析・検討、再編等組織の強化にも取組が始まり、① 夢のある会

② 楽しい会

③ たくましい会

④ 信頼される会 を建築士会活動

の原点とし目指す方向は「社会貢献」としてお

ります。私共佐久支部は左記活動を既に具体的に実践しており本会及び他支部に強くアピールして行きましょう。

昨年10月に開催されました日本建築士会連合会・石川大会で、支部青年女性委員会の実践活動《まちづくりの変革に挑む～小諸のまちなみと市民の声～》が平成25年度島根大会に続き最優秀賞を獲得し、我が青年女性委員会の実践活動が《連続2回日本一》となった証ではないでしょうか。本当に素晴らしい受賞であり、私は青年女性委員の皆さまの若い熱いパワーを今年も更に見せ付けて頂きたいと強く思っております。

今年度の支部建築士ネットワークは来年度に延期し、2月10日(水)佐久グランドホテルで開催の新年講演会は建築家・東京大学名誉教授の内藤廣先生の講演が実現できました。素晴らしいお話を聴くことができますので、大勢の皆さまのご参加と知人へのお声掛けをお願い致します。

今日のように「活発な支部活動が出来る環境」を北佐久支部と南佐久支部の合併当時(平成元年)からの先輩諸氏が築き上げて来て頂いたこの『DNA』をきちんと継承し地域社会から期待され、地域の皆さまとの交流連携を通してより良い郷土を創る為に皆で頑張る、今年も更に更に《花も実もそして力もある》佐久支部にして行きましょう。

会員の皆さま方のご健勝とご多幸と更なるご活躍をご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

長野県佐久地方事務所

建築課長 上原 佳司



明けましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。建築士会佐久支部の会員の皆様には、日頃から県の建築住宅行政にお寄せいただいております御支援・

御協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

「地方創生」への取り組みについて、県では「長野県総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン）の各施策により推進しているところですが、人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化に向けた施策として、昨年、策定しました「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」により取り組んでまいりますので、引き続き、御支援・御協力をお願いします。

さて、昨年は建築業界においては、東洋ゴム工業の免震ゴムの性能データの改ざん事件、また、旭化成建材の杭工事施工報告書データの転用事件など、消費者への信頼を失墜する由々しき不祥事が続きました。社会の信頼を取り戻すには相当の労力と時間を要すると思いますが、安心安全なまちづくりのためにも、一刻も早い建築業界の信頼回復が望まれるところです。

管内においては、小海町稲子の土砂崩れにより住民の方が避難を余儀なくされている状況が続いております。また、浅間山も二度の小規模噴火以来、依然として不安定な状況が続いている状況にあります。

一方、嬉しいニュースも届いており、川上村出身の日本人宇宙飛行士の油井亀美也さんが、国際宇宙ステーションでの数々の重要なミッションを達成され、無事ご生還されました。また、主要国首脳会議伊勢志摩サミットに合わせて開

催される交通大臣会合が、今年9月に軽井沢町において開催されることが決定されました。

貴支部においてもビックニュースがありました。石川県で開催された日本建築士全国大会において、青年女性委員会の活動「まちづくりの変革に挑む～小諸のまちなみと市民の声～」が、日本建築士会連合会最高位の「最優秀賞」を受賞されました。改めまして関係者の皆様のご尽力に敬意を表するとともに、心より御祝いを申し上げます。

長野県の空き家率は全国で2番目に多く年々増加傾向にある中、貴会におかれては空き家の適正な管理や活用若しくは解体など様々な相談に対する「空き家相談窓口」を昨年11月に開設し、社会貢献活動として関係団体などと連携しながら、専門的知識のある会員の皆様が空き家相談に取り組んでいただいております御協力に対しまして、御礼申し上げます。

本県の建築を取り巻く情勢ですが、経済動向の主要な指標のひとつであります「新設住宅着工戸数」の状況をみますと、佐久管内における平成27年度のこれまでの状況は、前年度を上回る水準に回復した状況にあり、住宅建設市場は持ち直しをしてきております。引き続き、今後の動向を注視してまいりたいと思います。

佐久地域の特有の環境や情緒を生かし、地域住民のまちづくり・景観に対する関心を高め、美しい景観づくりを推進するため、第10回「佐久地域景観賞」の募集を行いました。会員の皆様から多くの作品を応募していただくなど、御協力をいただきありがとうございました。

なお、審査委員会により選考していただいた作品を佐久地域景観協議会において受賞作品を決定し、2月に表彰することとしております。表彰後には、地方事務所建築課のホームページに掲載しますのでご覧ください。

本年も会員の皆様方のお力添えをいただきながら、地域の輝く個性と魅力を活かし、未来へつなげる佐久づくりに取り組んでまいりますので、一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年一年、会員の皆様の御健康と御多幸を心より御祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。

# 建築士会全国大会

## 地域実践活動「最優秀賞」の背景に

佐久市部 青年女性委員会 鎌田 賢太郎



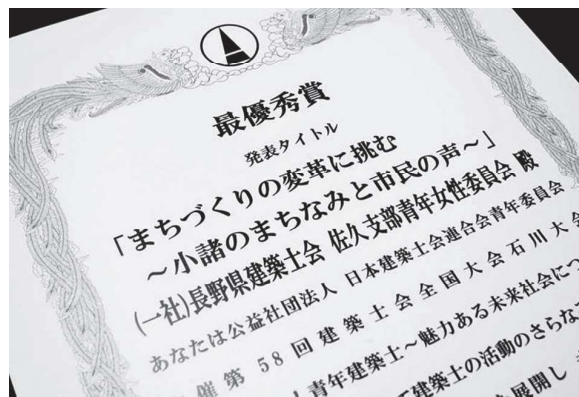
皆様からたくさんの御支援を頂きました、青年女性委員会の小諸まちづくり活動が、一昨年度に続き2度目の全国大会の最優秀賞を頂く事ができました。先月の建築士ながのと同様の投稿では面白味がないと思いましたが、こちらへは個人的な思いを綴らせて頂きます。

私が建築士会に入った目的のひとつに「まちづくり活動」がありました。まちづくり活動は、建築士として重要な社会的役割の一つと感じており、いつか自分に力が備わったら取り組みたいと考えていた大事業です。但しそのタイミングは、私の準備に関係なく訪れました。青年女性委員会のまちづくり活動の舞台を、佐久穂から小諸へ移すと決まった時、自分が先導役に

なる覚悟も無く一步引いた姿勢で取組むつもりでした。しかし活動を進めるにしたがって、小諸市民として「これまで抱えていた歯痒い想いをぶつけてしまおう」と気持ちが入り込み、「いつか取組みたい大事業」と思っていた機会が、今である事を感じ始めました。

長野県元気づくり支援金を頂き、信州大学と協働体制が組まれた状態で、何より近年の活気ある佐久支部青年女性委員会の仲間でまちづくり活動に取組める。そんな機会に恵まれる事は幸運だと、プラス思考で自分を納得させながら、先導役に立つ覚悟を決めました。本活動は政治的な領域へ足を踏み入れる内容でもあり、一步間違えると世間から建築士

会への批判が生じる可能性もありました。現在小諸市が進めるコンパクトシティ構想に水を挿さないように行政との距離感を計りながら、青年女性委員会の考える主張をしっかりと唱え「まちづくりの変革を起こしてみよう！」と薄氷の上を歩く思いでの活動となりました。仕事



もプライベートも犠牲にし、個人的には大きな負担ではありましたが、有志ある仲間の委員と多くの支援者の皆様のおかげで、全国大会の優勝に到る事ができました。



建築士会に入会してもう14年になります。これまでの青年女性委員会を振り返ってみると、ここ数年の委員会は大きく変貌を遂げています。きっかけは、佐久南インターの「ねむの木植えロード」活動が転機となったと思います。

「佐久穂まちなみ再考」と「小諸まちづくりの変革に挑む」における地域実践活動は、全国大会で最優秀賞を頂いたことによって、全国の建築士へ周知され、これからの建築士とまちづくりの関わり方に波紋を広げて行くことと思いま



す。このような委員会へ成長した背景には、建築士としての社会的役割を意識する委員が増え、自己研鑽と共に、建築士の活動のフィール

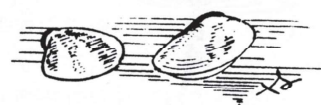
ド拡大を考える若手建築士が増えている状況にあると考えます。現在の佐久支部青年女性委員会は、日本全国において最も活発で団結力もあり、活気に満ち溢れている委員会です。県内

においては、他支部より「打倒！佐久支部！」と切磋琢磨の最たる対象とされ、全国大会でも他県より理想的な委員会体制と評価を頂きました。ここ数年は支部会員の減少に反して、青年女性委員会のメンバーは増加の傾向にあります。「若手が元気なら、佐久支部の未来も明るくなるはず！」と勝手に思い込み、また新しい活動へ取

組んでいきたいと思えます。支部の皆様には、少し元気過ぎる若者を抱えた親心のような気持ちで、青年女性委員会の活動を見守って頂けると幸いです。今回の活動においても、青年女性



委員会の独自の判断で自由に活動をさせて頂いたことを、支部の皆様へ心より感謝申し上げます。数多くのご支援、本当にありがとうございました。



## 平成27年度 事業中間報告

月 日	行 事 名	場 所
7. 1	東信ブロック会員ゴルフコンペ	望月カントリークラブ
7. 1	県社会貢献委員会	長野県建築士会館
7. 1	第2回情報広報委員会	佐久グランドホテル
7. 2	県建築活動委員会	長野県建築士会
7. 3	第1回総務企画委員会	佐久グランドホテル
7. 7	小諸市へ青年女性委員会関ブロ結果報告	小諸市庁舎
7. 7	県会員増強プロジェクト	長野県建築士会館
7. 14	第2回教育事業委員会	野沢会館
7. 14	第2回社会貢献委員会	野沢会館
7. 15	第5回青年女性委員会	こんどう
7. 22	青年女性委員会 氷地区視察	小諸市氷地区
7. 22	第2回総務企画委員会	野沢会館
7. 30	第1回三役・委員長会議	かつ栄
8. 19	第3回社会貢献委員会	野沢会館
8. 25	第1回実務講習会	佐久平交流センター
8. 27	県フォーラム実行委員会及び三役会	長野県建築士会館
8. 29	親睦ソフトボール大会	小諸市営球場
9. 2	県社会貢献委員会	長野県建築士会館
9. 3	県理事会	犀北館
9. 3	第3回総務企画委員会	野沢会館
9. 10	第2回三役会及び第3回幹事会	佐久平交流センター
9. 13	風穴の活用方法を考えよう！ワークショップ	小諸市氷地区
9. 15	三団体親睦ゴルフコンペ	望月東急ゴルフクラブ
9. 17	第4回社会貢献委員会	かつ栄
9. 29	第2回実務講習会	佐久平交流センター

月 日	行 事 名	場 所
10. 1	県青年女性委員会	長野県建築士会館
10. 15	県ゴルフ大会	松本浅間カントリークラブ
10. 16 17	三団体合同研修旅行	茨城県
10. 22	第5回社会貢献委員会	野沢会館
10. 29 30	全国建築士フォーラム 第58建築士会全国大会	石川県
11. 4	県総務情報委員会	長野県建築士会館
11. 7	風穴の活用方法を考えよう！ ワークショップ結果報告会	小諸市氷地区
11. 11	第4回総務企画委員会	野沢会館
11. 12	佐久南インター景観をつくる会片付け作業	桜井地区・岸野地区
11. 14	建築士フォーラム2015 inながの	メルパルク長野
11. 16	建築相談窓口開催	佐久合同庁舎内
11. 17	第3回実務講習会	佐久平交流センター
11. 21 22	子どもと作ろう！ウッドクラフト	イオンモール 佐久平店
12. 4	県三役会及び理事会	松本市
12. 8	最優秀賞受賞報告会	ベルウィンこもろ
12. 12	建築士セッション	メルパルク長野
12. 14	第3回三役会及び第4回幹事会	佐久グランドホテル
12. 15	建築相談窓口開催	佐久合同庁舎内



# 小諸市氷区風穴調査活動報告

佐久市部 青年女性委員会副委員長 荒木 貴志

10月末に石川県において開催された、第58回建築士会全国大会において、地域実践活動報告では、佐久支部青年女性委員会が最優秀賞を獲得



することが出来ました。関係各位の皆様のご協力とご支援があり、受賞に至ったのは言うまでもなく、青年女性委員としても誇らしい結果となりましたことに、まずもって感謝申し上げます。

しかしながら趣旨は地域での活動が主であり、地域での活動は途切れることなく活動しておりますので、その一つをご紹介させて頂きたいと思えます。

26年度において、佐久支部青年女性委員会は、“小諸市”をターゲットとしました。小諸

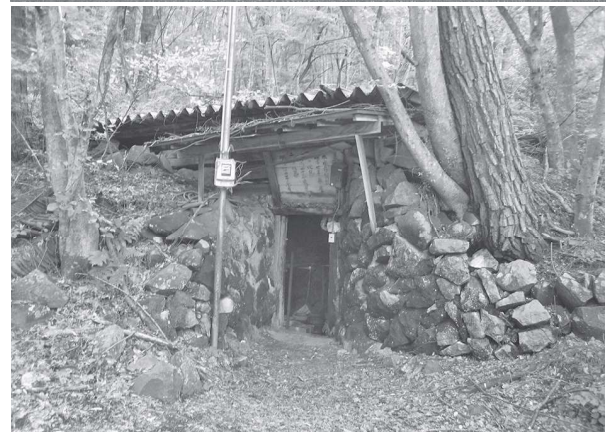


の今と未来をどう意識しているのかという内容のアンケートを約30,000人を対象に行い、1,000近い数を改修し、取りまとめ、分析・解析したものや、実際に小諸市の中では何が問題で、何が未来に残せるもので、何が必要となっ

ているのか、学生と共に町を歩き、聞き、触り、見てきたことを本にまとめてきました。

その中で委員会では、27年度の見出すものとして、“氷地区の氷室”に着目し、これはいろんな部分でも活用できるし、小諸の文化遺産価値のあるものではないか？と話し合いを繰り返してきました。

7月22日、気温は33℃の真夏日に、私たち青年女性委員会の有志で集まり“氷地区の氷室”を見学しました。所有者の方のご案内のまま、35戸という小さな区の路地を歩き、木漏れ日

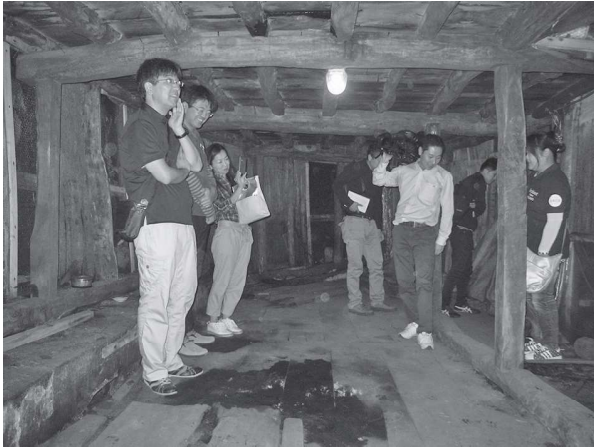


あふれる氷室群へと歩き、氷室へ入ると同時に、委員は目を丸くし、なんだこれは！と驚く姿は記憶から離れません。

それもそのはず、外気は33℃、自然の地形を生かし、石積の上に屋根を掛けただけの室なのですが、内部にある温度計は0℃を指していました。

建築士であるからなのか、石積の積み方をよく観察する委員、保存する花や果物などの状況





を詳しく聞く委員、歴史学から地形の特色と温度に疑問を抱く委員。

実際に体験をし、これは区民の皆様も含め、関係性のある方たちと活用方法についてワークショップを行おう、そこで何かを見いだせるかもしれないし、区民の方のお話も聞けるのではないかと話し合いをしました。

9月3日、区長・区民・地域の方・NPO系の街小諸の方・農業従事者・建築士会青年女性委員、約30名でワークショップを開催いたしました。

まず氷室を体験するというで中に入ったわけですが、そこではまた、“なんだこれ！”の声飛び交うなか、たくさんの意見が出てきたので早速会議室に戻り、意見を出し合いました。

観光面からの活用、安藤百福センターとの連携的な活用、農産物貯蔵的な活用、熟成目的な活用方法などなど、たくさんの意見があり、しいては6次産業のブランド化するための農作物・お酒などの貯蔵・熟成にどうかなど、具体的な意見もありました。

青年女性委員もいろんな意見を出し合いましたが、具体的に活用と大切なのは“維持”することであり、そのためには何が必要か、などという具体案としての意見も提案し、これをぜひとも多くの区民の方にも聞いてもらおうという方向に行き着きました。

しかしながら、あくまでも、氷室の所有者は区であり、中には個人所有のものもあります。所有者の方の意向があってのことである為、区長さんをはじめとする区の方たちに、あくまでも、第三者の意見として聞いて頂けないかというお願いをし、快く快諾頂きました。

11月2日、夜の7時からではありましたが、

公民館には区民の半分15名の方が来ていただきました。

委員もどう受け入れてくださるのか、不安を抱いていたのですが、区の方たちは、“よく見出してくれた”、“いろんな団体が来たけど打ち上げ花火で終わった”など本音の話をしてくださり、私共も打ち上げ花火で終わらせられないと身が引き締まる思いでした。

話の中では、活用活用というけれど実際古くし、壊れている物がほとんどだけど、どうするのかという意見もあり、それについても可能な限り行政に頼らず保存委員会を作ってください、お酒・果物など“氷貯蔵(熟成)”などブランド化し、スポンサー制度にするなど、やはり、きちんとお金が回るシステムを作ることが必須であることが、委員と区との共通認識でありました。

そして、いま、小諸市は6次産業活性化事業として小諸市での農産物・特産物をメインとした販売促進拠点施設を計画していくそうです。

“小諸の氷室貯蔵・氷室熟成”などなどブランド化し、独自の商品として差別化できるのではないかと感じます。

いま、取り急ぎ補修費用・改修費用をどうするのか、委員会で話し合いをはじめたところではありますが、区民の皆様の“想い”があっての話である為、足並みそろえていくことを前提に、6次産業施設整備事業・ブランド化応援支援等お金のことを調べていこうと思っています。



建築士会の青年女性委員会の活動が、たとえ小さな話であったとしても、そこに喜んで頂ける方がいて、未来につなげることが出来たのであれば、それは間違いではなかったことであり、今後も大小問わず活動していくべきだと思います。

これにつきましても、皆様のご支援とご協力が必要となりますので、暖かな目で私たち青年女性委員会を見守りくださいませ。

# 「親子で作ろう!! ウッドクラフト2015」 事業報告

社会貢献委員長 吉澤 和彦

11月21日(土) 22日(日)の2日間、第9回「親子で作ろう ウッドクラフト」をイオンモール佐久平店で開催しました。



材料は、昨年迄より少し少なめに予定して椅子 50台、CDラック 30台、花台 60台を用意準備しました。

2日間で、半分ずつに分けて作成しましたが、やはり2日間共椅子の製作人気が一番で早くからお客さんが並んで待っていました。

製作補助の士会会員さんと共に、お父さん・お母さんと製作している子供さんの顔は、笑顔



にあふれていました。準備が大変だったと思う委員の皆さんも、自然に笑顔になっていて、それがとても嬉しく感じました。



本年は、青年女性委員会の皆さんの全国大会最優秀賞の発表のコーナーとしてパネル展示、「けんちくん」のぬいぐるみを会員の方々に着て頂いたり、一般の方に建築士をアピールしました。

又、一般の方に防災意識を高めて頂く目的で、各市町村の防災マップの展示もしました。



佐久地域には大きな災害が少ないせいなのか、防災マップを観ていかれる方が少なかったような気がします。

二日間を通して、約300名のご来場者と40名の会員の皆さんにお手伝いを頂き、本年のウッドクラフトも盛況に終わりました。会員の皆さん、本当にありがとうございました。

# 建築士フォーラム2015inながの に参加して

小林 千恵

11月14日に長野市にて開催された建築士フォーラム2015inながのに参加致しました。

今回は初めて長野支部と須高支部の2支部合同での運営だったということもあってかとても大勢の方が参加されていました。



今回のフォーラムのメインテーマは「善光寺平周辺の今・昔そして未来」。第一部からパワースポット巡りや長野市美術館見学、須坂の街並散策や善光寺門前下散策など盛りだくさんの内容でした。私は青年女性委員会が企画運営した善光寺門前下の散策に参加致しました。

朝から小雨がパラついていたので天候が心配だったのですが、北村青年女性委員長のおかげかなんとか散策中は降られずに済みました。仁

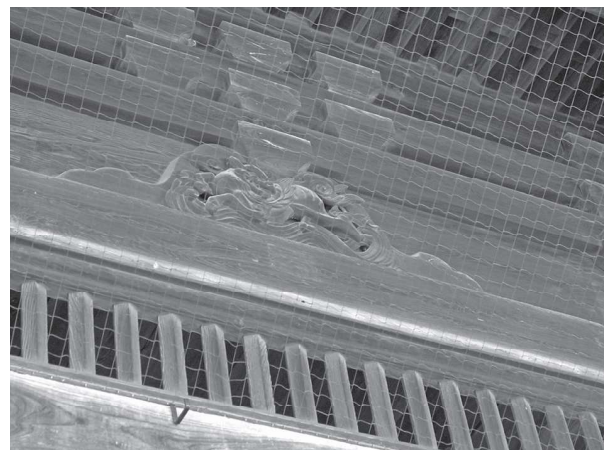


王門～善光寺まで相原文哉先生による解説を受けながら散策をしたのですが、普段参拝する時には気付かないような彫刻や知らなかった内容がたくさんありとても勉強になりました。例えば仁王門の金剛力士像は冬至の朝に阿形像の顔

に朝日が当たるよう、阿形像と吽形像が通常とは逆に配置されているそうです。また善光寺本堂近くの三門は鳩が5羽隠れた「善光寺」という額が有名ですが、三門内にはウサギ・カラス・鳳凰・麒麟・角端（かくたん）・獺（ばく）が霊獣として彫刻されていて角端と獺が彫刻されているのは全国的に見ても大変珍しい事だそうです。善光寺に行かれた際には是非三門を見上げてみてください。善光寺は七五三の時期という事もありたくさんの人が参

拝されていました。

弥生座にて美味しい昼食を頂いた後は大本願の宝物館を見学し、和宮様など皇室由来の御遺



品があり大変素晴らしい物を拝見させていただきました。その後大本願の地下に移動し、松橋寿明先生による「善光寺を世界遺産に」というテーマにて善光寺の歴史や特徴、魅力などを講義していただきました。祈る、という共通の行為の前で男女・宗派を問わずだれでも受け入れ

るという善光寺の信仰形態はとても日本らしく、文化遺産として残していくべきだと感じました。

第二部は大会式典及び松村秀一先生による「2015年の建築 七つの予言」をテーマにした基調講演でした。建築という分野において新し



い仕事のかたちを探るという内容で、1. 生活する場から発想 2. 空間資源を発見 3. 空間資源の短所を補い長所を伸ばす 4. 空間資源を「場」化する 5. 人と場を出会わせる 6. 経済活動の中に埋め込む 7. 生活の場として評価する 以上が新しい仕事のかたちの七つの要素ということでした。こうして書き出してみると地域活動の内容のようです。

第三部は懇親会です。男声合唱団による信濃の国の合唱や、きれいなお姉さん達によるベリーダンスなどとても盛り上がりました。また一年に一回のこのフォーラムにしかお会いできない方々とも楽しくお酒を頂きながら親睦を深めることが出来、とても有意義な時間を過ごす事ができました。例年にない程たくさんの方が懇親会まで参加され、大盛況の中終了致しました。

来年は中信ブロックの大北支部が運営という事なので温泉に入れることを期待しつつ来年も是非参加させていただきたいと思います。



## 特別寄稿



### 青年女性委員会の活動に思う…

出澤 潔

3年前の「佐久穂のくまちなみ」再考プロジェクト」に続いて、昨年は「まちづくりの変革に挑む～小諸のまちなみと市民の声～」が日本建築士会連合会地域実践活動の最優秀賞に輝いた。こうして続けて最高の評価を得られるという事は連合会の歴史の中には無く、これからの事だろう。実に素晴らしい快挙である。

この活動を押し進めたリーダー達や青年女性委員会の皆様のご努力にあらためて敬意を表するとともに大きな拍手をお贈りしたい。

そして、この活動に協力して下さいた多くの方々、この活動の場を与えて下さった皆様に深い感謝を申し上げなければならない。

17年前、第42回建築士会全国大会が長野市で開催された。ここで「新しい建築士像を目指して『建築士の社会的役割の確立』『地域貢献活動への積極的対応』など5項目の大会宣言」が採択された。以後全国大会での大会宣言に「地域貢献」の文字を欠くことはなく、建築士会の地域貢献を目指した活動の場は拡がっている。

8年前の公益法人制度改革を受けて私達は組織を挙げて様々な議論を尽くし、結果一般社団法人の道を選択したことは周知の事である。

制度改革前の社団法人は公益的性格を持つものであり、永年社団法人であった私達の会はこの制度改革への対応をあらためて議論するまでもない事であって、選ぶ道は公益社団であった。まして地域社会のために尽くそうという新しい

建築士像を共通の理念としていた私達が公益の団体であるという旗を高く掲げるのは当然の事でもあった。しかし、公益社団法人への理解が十分に進まないことに加えて新公益社団法人化へのハードルは高く、それを越えることは会財政・会運営面から困難であるとの判断から一般社団法人の道を選択した事は、大変残念なことではあったがやむを得ない事でもあった。

継続される青年女性委員会のこうした活動は、地域社会の現状の姿を確認し豊かな環境への変革を求める公益的活動の典型的な姿であり、活動する建築士へ注ぐ地域社会の眼差しは今迄以上に熱いものになるに違いない。

昨年秋、長野市で行われた「建築士フォーラム2015」の基調講演は東京大学大学院の松村秀一先生の「2025年の建築 七つの予言」と題したお話だった。建築生産に造詣の深い松村先生のお話はこれからの建築の在り方・つくり方などがその中心ではあったが、その中で「まちを造る仕事はもう終わっている。これからの仕事はまちを生活の場として評価し、まちに未来の暮らしを埋め込むこと」というお話があり、それが私にはとても新鮮に感じられ、「まちづくり」に新しい視点を与えられたように思えた。まちは私達の生活の場であり私達の暮らしが表現される場でもある。そう思った時、私達が知っている「まちづくり」は今の人々の生活を基に議論し、人々の豊かな生活の場が描かれる。今、私達は私達が持つ社会システムの様々な部分に破綻が生じ、それらが顕在化してきていることを知っている。これからの私達はどうか、価値ある生き方のためにはどうすればいいのか。今の生活をあらためて検証し未来の生活を議論し、そういった思いをまちに埋め込んでいくことがまちの再生につながるという事なのかも知れない。

3. 11は東北地方に大きな爪痕を残し、著名な建築家達は被災地に入りさまざまに被災地を支援している。伊東豊雄さんはそうした経緯を通して「もっと社会の内側に入ってポジティブに建築をつくりたい。建築家という鎧を身に纏うのではなく、ただひとりの人間として建築を考えてみる必要がある。」と著書に自分の気持ちを表している。そして、松本のシンポジウムでは「設計者と住民はどうしても向かい合う関係になり一緒につくるという実感にならない。一緒につくるのが20世紀的な近代建築から一步抜け出す契機になる。建築から『作品』という概念は消えた方がいい。個人の芸術的な表現から社会的な表現を切り開いていかなければならない」と発言している。これらの事は私が予てから持つ思いと重なり大変意を強くするものではあるが、私などが理解の出来る範囲を超えて、もっともっと深い意味があるに違いない。

ともあれ、このたびの青年女性委員会の活動や建築士フォーラムでの講演などを通して、建築士の資格を基に社会に参加する意義をあらためて教えられたように思う。



## 新入会員の声

### 田村 ころこ

本年度より建築士会佐久支部にてお世話になっております、田村ころこと申します。今回は誌面をお借りして、少し自分のことを書かせて頂こうと思います。

私が建築士を志したきっかけは両親でした。父はバリバリの営業マン、母はインテリアコーディネーターとして設計事務所で働いていました。

私が物心ついた頃、父は脱サラをして全く異業種の建築パース屋さんになりました。物置だった小屋裏の一室に、大きなドラフターとエアブラシのポンベが入りました。当時は手描きしかありませんでしたから、父は鼻毛を空色にしながら每晚遅くまで学校や市役所を描いていました。私は仕事部屋に遊びに行っは、白黒にコピーされた住宅のパースに色を塗って遊んでいました。なぐり描いた拙い塗り絵を一枚、額に入れて飾ってくれたのを、子供心にとても嬉しく覚えています。退職した母は、父の仕事を手伝っていました。緑を描く担当です。手前の花壇も奥の山の木々も、母の面相筆で生き生きと描かれていきます。スタジオジブリからお声が掛かってもいい腕前だ、と幼い私は思っていました。

進路に悩んだ学生の頃、父は私に「何になってもいいんだ、今なら何にでもなれるんだよ」と言ってくれました。建築を志そうと決めた時から、決意が揺らいだ時もありました。その度に父の言葉を思い出し、「何にでもなれる自由の中から自分で決めた道だから、もう少しやれるところまでやってみよう」と続けることができました。やれるところまでやった先には、今の自分とは違う自分があるはずです。人生の選択は、その時々の方がベストだと思うものを

選べばいい、と思えます。

私の実家は母の基本設計によるものです。とても複雑な壁や天井で、当時設計士さんや大工さんにはご苦労を掛けたと思います。それでも、細部までこだわりを持ち、しっかりと勉強し平面・立面・展開図まで書いて自分のイメージする空間を実現した母は立派です。建築の勉強を進めてみると、私は比較的恵まれた住体験をしてきたのだなあと感じます。機械を使って年間通してオートマティックに快適が保たれた環境が、豊かな住体験を生むとは思いません。五感を介した能動的な所作によって、快適や感動がきちんと得られることが大切で、これを実現するには家の性能と住む人の知識や経験の両方が必要だと思います。子どもたちは学校の家庭科で少し触れる程度、住空間についての学習がほぼ無いに等しいと思います。小さいお子さんのいるご夫婦の住宅を担当させて頂く時には、できる限り豊かな住体験を持ってほしいと、微力ながらいつも気が引き締まります。

建築は奥深く、まだまだ勉強することばかりです。信州人らしく山登りに例えると、今の事務所で、靴やリュック、非常食やら一式を一から準備して頂いて、熊に遭ったらどうするといった注意点や、山の魅力について多くの事を教えて頂いたところです。やっとう麓の登山道入り口に立たせて頂いた私ですが、たくさん頼もしい諸先輩方の知識やお力を頂きながら、これからも頑張っていこうと思います。ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



## 賛助会員の紹介

### 竹花工業 株式会社

長野県建築士会佐久支部会員の皆様には、平素より格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

弊社は「お客様の満足を満たし、地域社会に貢献する」を基本方針とし、「高い技術、誠実、迅速」を社是に掲げ、多くの皆様の評価を頂いてまいりました。

昭和29年の創業以来、総合建設業として、社会と企業、企業と社員、人と人、あらゆる関係の中に息づくものが「信頼・和」と考えています。

社内においても、行事等を通じて社員同士のコミュニケーションを図り、「信頼・和」を大切にしたい明るい職場の実現に努めています。

例えば、年末行事のもちつき大会。最近ではあまり見られなくなった光景ですが、弊社では毎年、社員の家族・会社のOBら総勢100名程が集まり、臼と杵で餅をついています。それを手作りの豚汁と共に皆でいただき、感謝の気持ちで一年を締めくくります。

また1月17日には、別所温泉の山腹にある「山の神」参拝という行事があります。昭和15年、創業者の祖父が別所国民学校新築工事に携わった際に、偶然山中で発見された「祠」をお祓いしお守りしたところ、事故なく立派な校舎を完成させることができました。それ以来75年、その祠を「岩屋観音・山の神」と祀り、毎年、協力会を含め50名程で険しい山道を徒歩で上り参拝します。下山した後は常楽寺・北向観音でさらにお参りをし、今年一年の健康と安全を祈願しています。

昨年12月には、弊社の軽井沢営業所が新築移転致しました。社員一丸となり、さらなる成長を目指し努力していく所存でございますので、本社共々変わらぬご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後に、長野県建築士会会員の皆様の益々のご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

## YKK AP株式会社

YKK  
AP

高性能トリプルガラス樹脂窓

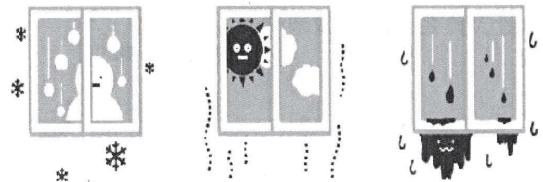
APW® 430

## ツーアクション窓

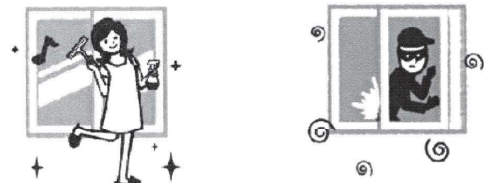


“ひとつの窓”で解決できます！

●冬の寒さ ●夏の暑さ ●結露



●お掃除しやすい ●安全に換気



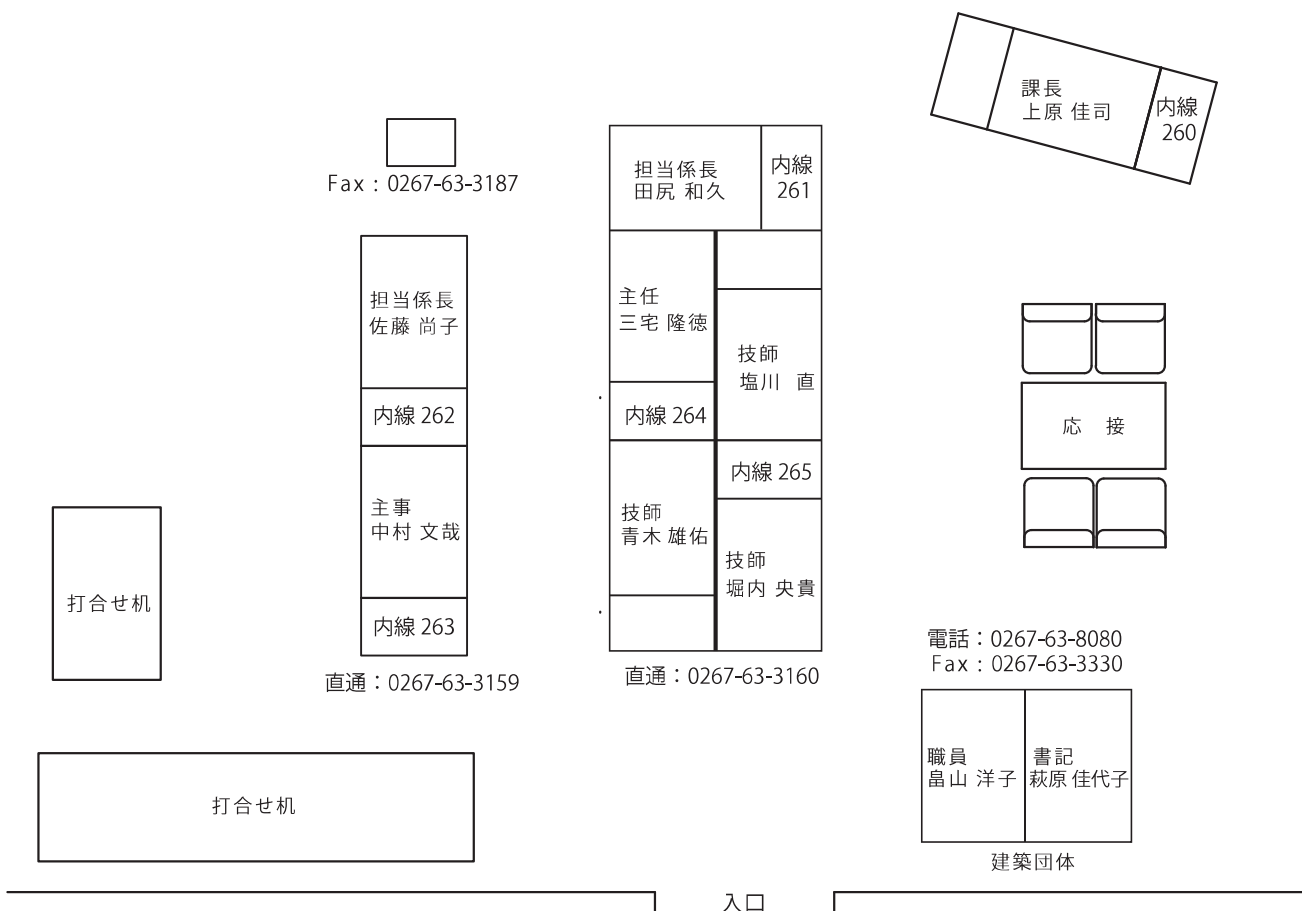
## YKK AP株式会社

信越支社 長野住宅建材支店 小諸営業所  
〒389-0502 長野県東御市446-1 TEL0268-64-4141

『ツーアクション窓』は、長野で見れます！

展示場：〒380-0918 長野県長野市アークス6番11号  
YKK AP (株)長野支店 1階 プレゼンテーションルーム長野  
TEL026-267-7703 (定休日:水曜日・祝日 他)

## 建築課配置図



### ● 編集後記 ●

#### 「第58回建築士会全国大会 石川大会」

##### まちづくりの変革に挑む ～小諸のまちなみと市民の声～

日本建築士会連合会最優秀賞受賞おめでとうございます。

佐久支部青年女性委員会のみなさんご苦勞様でした。(N)

会報『ちくま』第54号 2016/1  
 発行者 (一社)長野県建築士会 佐久支部  
 情報広報委員会  
 事務局 〒385-8533 佐久市跡部65-1  
 佐久地方事務所内  
 TEL 0267-63-8080  
 FAX 0267-63-3330  
 E-mail:ken8080@seagreen.ocn.ne.jp  
 支部HP <http://www.aba-saku.com/>  
 印刷所 プリントショップ コスモス  
 TEL 0267-54-8010



は平成28年7月中旬予定です。